

パレスチナを分断する壁という現実

人類の歴史の中で、国家や民族、イデオロギーの対立によって築かれてきた無数の壁。万里の長城やベルリンの壁のように物理的にも目に見える壁から、差別や社会構造によって人々を精神的に隔てる不可視の壁まで、実に多くの壁が築かれ、人々を断絶し、やがて崩壊していきました。

今、新しい壁が中東で生まれています。2002年よりイスラエルが「テロの侵入を防ぐ」という名目でパレスチナ・ヨルダン川西岸地区とイスラエルの境界地帯に建設を進めている分離壁です。

巨大なコンクリート壁や電流フェンス、^{ざんごう}塹壕、監視塔などから構成され、高いところでは高さ8メートルにも及ぶこの壁は、現在すでに200kmが建設され、完成すれば全長約700km（東京―青森間に匹敵）にもなります。また、実際には停戦ラインよりもパレスチナ側に深く食いこみ、人々の交通や日常生活に大きな障害をもたらしていることから、国連をはじめとする国際社会から批判を浴びています。

<壁比較>



(ベルリン) 1

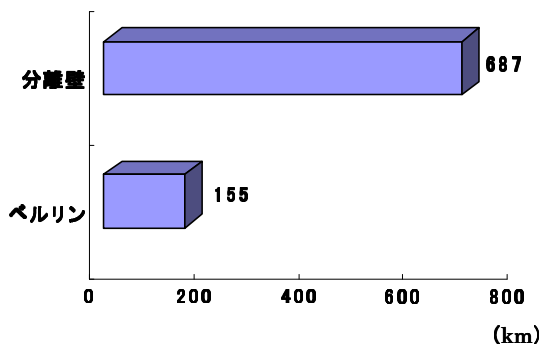


(パレスチナ) 2

	高さ	長さ
ベルリンの壁 1	3.5-4.2m	155 km
分離壁 3	8m	687 km*

*予定

壁の長さ比較



分離壁に関するデータ 4

壁の費用: 1kmあたり約1,200万シェケル(約3億円)

完成予定時期: 2005年



(壁建設地: 黒い線が壁)⁵

¹ <http://www.mauer.jp/>

² <http://stopthewall.org/photos/137.shtml>

³<http://www.reliefweb.int/rw/rwb.nsf> ⁴<http://stopthewall.org/news/factsheets.shtml>

⁵<http://www.gush-shalom.org/thewall/thewall.pdf>